

1 現 状

- 被災による避難所生活の長期化や住み慣れた家、地域を離れた生活などにより、心理的負担が増大している被災された方が多数いる。
- 見守り支援など生活再建支援の更なる充実を図ってはいるが、被災された方の心を癒やす支援が不十分な状況。

2 課 題

- 長期にわたる避難生活や応急住宅への移行などによる環境変化の中で、今後も被災された方の心理的負担が継続することが想定されるため、被災された方が抱える不安な気持ちを吐き出し、心を癒し、前を向けるよう「心の復興」を後押しする支援が必要。

3 方 針

- 被災された方の心の回復と人とのつながりの再構築を図るため、体調不良に対して薬を処方するように、文化芸術(アート)を活用して心の安定と社会的つながりを促進する「文化的処方」を活用した取組を実施する。

1. 対話型鑑賞の実施(10月～12月)

- ・ 「対話型鑑賞」を、熊本地震からの心の復興へむけた支援取組として、応急住宅等を対象に10月から毎月1回実施予定。
- ※ 「対話型鑑賞」とは、絵画などの一つの作品を複数人で対話しながら鑑賞し、対話を通じて自身の感情や考えに向き合い、自由に表現する力を育むとともに、自分とは異なる考えに触れ、お互いを認め合うことで、人との緩やかなつながりを実感できる鑑賞プログラム



2. アートバス事業の実施(12月22日)

- ・ 被災したこどもたちの心のケア等を目的として、南区杉上小の生徒を対象に「アートバス事業」を実施予定。
- ※ 「アートバス事業」とは、現代美術館で熊本市内の小学校を対象に、バスを貸し切り文化芸術活動をサポートする事業



3. 文化リンクワーカーを活用した心の交流

- ・ 「文化リンクワーカー」(職員)を活用して、応急住宅等を訪問し、文化芸術を介したコミュニケーションで被災者一人ひとりの心を癒すとともに、思いを表現する場の提供や人とつながる機会の創設など、被災者との心の交流となる取組について実施予定。
- ※ 「文化リンクワーカーと」は、文化芸術を活用して人と人、人と地域をつなぎ、ときに自ら文化的処方場の活動の場をつくり出す人のこと。
- ※ その他、現代美術館も東京藝大と連携して「ハートマークビューイング」など“心の復興”を支援する事業について計画中。



